

青山学院高等部



よくある質問集

(2025年度入試用)

も く じ

➤ 学校生活全般に関するQ&A	2
➤ 大学進学に関するQ&A	7
➤ 推薦・帰国生・一般入試に共通するQ&A	8
➤ 推薦入試に関するQ&A	12
➤ 帰国生入試に関するQ&A	18
➤ 一般入試に関するQ&A	22

学校生活全般に関するQ&A

《全 般》

質問1 学校の規模はどれくらいですか。

回答1 生徒総数は約1,200名、各学年とも10クラスです。教職員は、部長(校長)ほか専任教諭66名(うち6名はネイティブスピーカー、2名は養護教諭)、講師41名、校医1名、歯科校医1名、カウンセラー3名、看護師2名、事務室および図書室などの事務職員約20名です。

質問2 学期制はどうなっていますか。

回答2 1学期、2学期、3学期の3学期制です。

質問3 学校は何時に始まりますか。

回答3 1年を通じて、授業開始は8:15です(予鈴は8:10)。

質問4 制服はありますか。

回答4 あります。詳しくは、本校ウェブサイトまたはスクールガイドをご覧ください。

質問5 クラス編成はどうなりますか。

回答5 一般入試・推薦入試・帰国生入試および中等部からの内部進学による入学者が、ほぼ同じ比率で10クラスに分かれます。1クラスの生徒数は約40名です。

質問6 文系・理系のクラス分けはありますか。

回答6 文系・理系のクラス分けはありません。各自が希望進路に沿った選択科目を履修します。

質問7 土曜日の授業はありますか。

回答7 授業週5日制を採用しています。土曜日の授業はありませんが、バレーボール大会や文化祭などの行事、クラブ活動などを行っています。

質問8 奨学金制度はありますか。

回答8 奨学金には複数の種類があります。経済的に修学が困難な生徒、または人物・学業が優秀な生徒などを支援するための奨学金などがあり、それぞれ応募資格が異なります。また、奨学金ごとに給付(返済不要)もしくは貸与(返済必要)の種別も異なります。奨学金の参考情報につきましては、スクールガイド30ページをご覧ください。

《施設》

質問1 高等部の施設にはどのようなものがありますか。

回答1 HR教室や特別教室がある西校舎・北校舎、礼拝や集会などで使用するPS講堂、カフェテリア、体育館棟（メインアリーナ、サブアリーナ、プレイルーム、柔道場、トレーニングルーム）、部室棟、グラウンド（中等部と共有）、テニスコートがあります。

質問2 生徒が使えるシャワールームはありますか。

回答2 あります。

質問3 大学の施設は使えるのですか。

回答3 大学食堂や大学購買会を利用できます。大学のグラウンド等を使用する体育系クラブもあります。

質問4 高等部専用の食堂はありますか。

回答4 高等部生専用のカフェテリアがあります。また、大学食堂も利用できます。ただし、基本的にはできるだけ弁当を持参して、教室で昼食をとることを勧めており、実際に多くの生徒がそのようにしています。

《学習》

質問1 教育課程(各学年のカリキュラム)はどのようになっていますか。

回答1 本校のカリキュラムの特徴は、学年が上がるごとに増える選択科目の多さです(1年次2単位、2年次7単位、3年次15単位+自由選択2単位)。選択科目などについて、詳しくは本校ウェブサイトまたはスクールガイドをご覧ください。

質問2 定期試験はどれくらいありますか。

回答2 1・2年生は1・2学期にそれぞれ中間試験および期末試験があり、3学期には期末試験のみが行われます。3年生は、1学期に中間試験および期末試験があり、2・3学期はそれぞれ期末試験のみが行われます。

質問3 定期試験の成績が不振である場合、補習などは行われるのでしょうか。

回答3 英語は、1年生の1学期中間試験の成績が振るわなかった生徒に対し、放課後に補習を行っています。その他の教科に関しては、教科担当者が試験前に独自に補習を設定したり、休み時間や放課後に相談にのったりしています。

質問4 塾に通っている生徒はどれくらいいますか。通塾は必要ですか。

回答4 学校の授業をしっかりと受けていれば成績に大きな心配は不要ですので、通塾が必要というわけではありません。ただし、自らの学力向上のために、一部の生徒は塾などにも通っているようです。

質問5 高等部は大学と同一のキャンパスにあります。カリキュラムの上で大学との連携はありますか。

回答5 3年生の希望者で条件を満たした生徒が、放課後に青山キャンパスの大学の授業を4単位まで履修でき、内部進学した際に単位認定される、という制度があります。また、青山学院の大学・専門職大学院の教員が自分の専門分野について高校生に分かりやすく講義をする「学問入門講座」(オンデマンド配信)が30講座ほどあり、いつでも、いくつでも視聴できます。生徒は自分の関心のある講座を自由に選び、学問探求の面白さ、奥深さに触れ、進路選択にも役立てています。学問入門講座一覧表は、スクールガイドに掲載しています。

《クラブ活動》

質問1 クラブ活動にはどのようなものがありますか。

回答1 体育系クラブは23、文化系クラブは17(クラブ4、同好会6、特設クラブ7)あり、約85%の生徒が加入しています。詳しくは、本校ウェブサイトをご覧ください。

質問2 クラブの活動日、活動場所などを教えてください。

回答2 活動日や活動場所はクラブが個々に定めていますので、詳しくは本校ウェブサイトをご覧ください。

質問3 複数のクラブに入部することはできますか。

回答3 同好会、特設クラブのみ複数入部可能です。

質問4 クラブの活動時間は何時までですか。また、朝練は可能ですか。

回答4 授業終了後から18:00(終鈴)までが活動時間です。朝練は、通常7:30から8:00まで可能です。

質問5 体育系クラブの体験や見学などは可能ですか。

回答5 クラブの体験や見学は行っていませんが、学校説明会当日などに見学ができる場合があります。

《行事》

質問1 修学旅行はありますか。

回答1 2年次に修学旅行があり、3泊4日の日程で九州を訪れ、平和やキリスト教について学びます。見学地は各ホームルームで異なり、修学旅行委員が中心となってホームルーム内で話し合っ決定します。

質問2 体育祭はありますか。

回答2 全員参加の体育行事は6月に行われており、伝統的にバレーボール大会を開催しています。

質問3 文化祭はありますか。

回答3 あります。例年9月に行われ、受験生にも公開しています。

《その他》

質問1 自転車通学はできますか。

回答1 学校までの自転車通学は認めていません。

質問2 通学時間の制限はありますか。また、在校生はどのような地域から通学していますか。

回答2 通学時間に制限は設けていません。在校生は、概ね30分から1時間程度の通学時間ですが、近県からの通学者もおり、1時間半前後の通学時間がかかる生徒もいます。

質問3 携帯電話の持ち込みは許されていますか。

回答3 持ち込みは許可していますが、8:10(予鈴)から授業終了までは電源を切りロッカーへ入れて施錠し、放課後まで取り出し不可です。

質問4 アルバイトや、自動車・オートバイの免許の取得は禁止されていますか。

回答4 禁止はしていません。保護者のご判断に任せています。

質問5 規模の大きな学校であるため先生の目が行き届かない、といったことはありませんか。

回答5 そのようなことがないよう努力しています。ホームルーム担任・学年配属の教諭からなる学年会があり、連絡協議会・生徒会顧問会・クラブ委員会・各種委員会の担当教諭が協力して生徒の日常の学校生活を見守っています。また、クラブ活動については教諭のほか、外部指導者(社会人・大学生)も監督・コーチとして技術指導にあたっています。

質問6 生徒の健康管理の体制はどのようになっていますか。

回答6 校内保健室には養護教諭が常駐しています。4月には定期健康診断を行います。自分の「からだ」「こころ」を守るためのお手伝いをしています。また、臨床心理士の資格を持つカウンセラーも常駐して学校生活全般に対応しています。

質問7 不登校など心のケアを必要とする生徒の指導はどのようにしていますか。

回答7 相談室には3名のカウンセラーが交代で常時勤務しており、生徒だけではなく保護者の方からの相談にも応じています。普段からカウンセラー・養護教諭が連絡を密にとり合い、問題解決のための努力をしています。

質問8 地震等の天災への対応(校舎の耐震化・備蓄品・保護者への連絡)は、どのようになっていますか。

回答8 校舎(2014年完成)は耐震構造になっています。備蓄品については、校内に非常用の飲料水および食料等を用意しています。保護者への連絡については、メールでの一斉連絡システムを導入しています。また、登下校中の災害に対しても、他校と連携をとって対応します。

質問9 保護者会あるいはホームルーム担任との面談は、年間にどれくらいありますか。

回答9 行事予定として設定されている保護者会は5月に1回あります。ホームルーム保護者会や担任との面談は適宜行っています。

質問10 海外留学制度やホームステイなどはありますか。

回答10 公的非営利留学斡旋団体(AFS、YFU、IF、国際ロータリークラブなど)の選考試験に合格して海外留学する生徒が毎年15~20名程度います。留学の種類には、第1種留学と第2種留学があります。第1種留学は、1年間の留学の後に元の学年に戻れる制度で、第2種留学は1年下の学年に復学する制度です。

また、英国ケンブリッジのリーズスクール、イタリアのクレスピ校との間で姉妹校提携し、それぞれ数名の生徒が2週間程度の短期交換留学を行っています。その他、夏休みには学校主催でカナダのトロント市郊外のバリー市へのホームステイが行われています。

質問11 芸能活動はできますか。

回答11 禁止はしていませんが、学校としては、学業はもちろんのこと、さまざまな学校行事や生徒会活動、クラブ活動などの学校生活を第一に考えてほしいと思います。したがって、それが守られないような芸能活動は認めていません。

大学進学に関するQ&A

質問1 青山学院大学への内部進学のおすすめはどのようになされるのですか。

回答1 本校を卒業し青山学院大学への入学を第一志望とする生徒は、基準を満たせば、その卒業年度の1回に限り、青山学院大学のいずれかの学部におすすめされます。おすすめするか否か、どの学部におすすめするかは、本人の希望を尊重しながら、在学中3年間の成績と3年次の学力テストの総合評価、適性、出席状況その他を考慮して決定します。学部ごとにおすすめできる上限人数も決まっています、必ずしも第一志望の学部におすすめされるとは限りません。その場合は、第二志望以下の学部におすすめされます。

質問2 将来、他大学への進学も考えています。青山学院大学への推薦を辞退せずに他大学を受験することはできますか。

回答2 他大学に出願する場合は、青山学院大学への推薦による内部進学はできなくなります。

質問3 青山学院大学への推薦を辞退した卒業生は、具体的にどのような進路を選んでいるのですか。

回答3 青山学院大学にはない、医学部、歯学部、薬学部、芸術関係の大学へ進む場合と、国公立大学、有名私立大学、海外の大学へ進むケースが多いようです。

質問4 青山学院大学以外の大学への推薦はありますか。

回答4 原則として、青山学院大学にある学部学科と同一または類似の学部への推薦を受けることはできませんが、医歯薬系学部など、青山学院大学にない学部学科であれば可能です。また、指定校推薦もあります。

質問5 大学進学についての説明会などは行われますか。

回答5 主に1年生を対象にした青山学院大学の理工学部見学会、2年生を対象にした青山学院大学の教授陣による学部説明会、3年生を対象にした卒業生による学部学科説明会などが行われています。その他、オープンキャンパスや学問入門講座を通して大学の授業に触れることが可能です。

質問6 外部大学を受ける生徒への指導はあるのでしょうか。

回答6 外部進学のための補習授業などは行っておりませんが、生徒たちは学年の進路担当の教員やクラス担任への相談、面談、指導などを通じ、計画を立てていくことになります。また、過去の進学実績や各種資料を参照することもできます。全体としては、2年、3年の選択科目登録、2年次、3年次の進学指導会、担任との面談などを通じ、卒業後の進路を決定していきます。

推薦・帰国生・一般入試に共通するQ&A

《出願資格について》

➤ 評定について

質問1 学校から通知表が配布されないため、評定を記入できないのですがどうしたらよいですか。

回答1 通知表がなくても、調査書は学校側で記入してもらえます。ご不安でしたら、中学校にご確認ください。

質問2 2学期制の学校は、調査書に3年生のいつの成績を記入すればよいですか。

回答2 中学校が3年 12月の時点で出すことのできる1学期からの総合成績 を5段階評価で記入してもらってください。

質問3 3年2学期の評定とは、2学期だけの成績を指すのですか。

回答3 1学期からの成績を総合した12月時点での成績で、中学校が公立高校に提出する成績と同一のものを3年2学期の評定とといいます。2学期制の学校においても、12月時点の評定(後期の中間まで)を記載していただきます。

質問4 10段階評価の中学校は、調査書記入の際どうすればよいですか。

回答4 中学校で5段階評価になおしてもらってください。

質問5 中学校過年度卒業者の受験は認められますか。

回答5 推薦入試の資格においては、認めていません。入試要項の出願資格に記載のとおり、当該年度に学校教育における9年間の課程を修了見込みの者に限られます。
帰国生入試・一般入試については、入試要項をご確認ください。

《出願書類について》

質問1 出願書類には本名を記入しなければいけませんか。

回答1 通称名で結構です。また、本籍などを記入することはありません。ただし、氏名については、すべての出願書類で統一してください。入学決定後は本名を届けなくてはなりません。

質問2 調査書はどのように評価するのですか。中学校間に学力格差があるとも言われていますが、調査書の成績をどのように調整するのですか。

回答2 得点調整など、学校間格差の是正はしていません。

質問3 調査書の「特記事項」欄に資格等の名称を記入した際、資料の添付は必要ですか。

回答3 調査書は、在学する中学校が「公文書」として本校宛に発行するものなので、資料添付は不要です。

質問4 中学3年の2学期に転校した場合、必要書類(調査書など)は卒業予定の学校で書いていただいたほうがよいですか。

回答4 そのようにお願いします。

質問5 中学3年で転校した場合、調査書における第1・2学年の評価はどうなりますか。

回答5 国内中学あるいは海外日本人学校からの転入の場合には、前の学校から現在の中学校へと資料が引き継がれますので、それに基づいて卒業予定である現在の学校で記入してもらってください。

《提出書類の不備について》

質問1 提出書類に不備があった場合にはどうなるのでしょうか。

回答1 書類不足や内容の誤りなどの不備がある場合は受理できません。入試要項を熟読し、記入漏れがないよう十分に注意してください。

《入学試験当日の遅延・体調不良などへの対応》

質問1 入試当日に体調不良の場合はどうしたらよいですか。

回答1 入試当日に体調不良を申し出た受験生には別室で受験をしてもらっています。

質問2 入試当日に交通遅延に巻き込まれ、遅刻してしまったらどうなりますか。

回答2 遅れても来校できる場合はお越しく下さい。状況に応じて対応します。早めに来校した際にはPS講堂でお待ちいただけるようになっておりますので、時間に余裕を持っていらしてください。

《昨年度入試について》

質問1 昨年度入試の適性検査や筆記試験の最低合格ライン、平均点を教えてください。

回答1 適性検査や筆記試験の各問題の配点や合格ライン、平均点などについては、公表しておりません。

質問2 昨年の受験者数・合格者数・補欠者数などを教えてください。

回答2 受験者数・合格者数・倍率などに関しては、スクールガイド30ページ、または本校ウェブサイトに掲載されています。補欠者については、一般入試のみ発表しています。補欠者の人数は年により様々です。

《欠席過多、不登校の生徒について》

質問1 不登校などの事情によって欠席日数が多くなってしまった場合、入試にはどの程度影響するのでしょうか。

回答1 別紙に事情を具体的に記載して出願してください(校長公印が必要)。個々に検討します。

※推薦入試に関しては、欠席日数の上限を超えていたら出願できません。

質問2 中学での欠席事由に関する医師の診断書の提出は必要ですか。

回答2 可能ならば診断書のコピーなどを添付してください。(中学校からのコメントが具体的かつ詳細に記述されていれば提出の必要はありません。)

質問3 中学校3年間の欠席を記入するのはなぜですか。可否に関係があるのですか。また、骨折をして通院のための欠席が多いのですが、このようなものはマイナスの評価になるのでしょうか。

回答3 欠席日数が多い場合はチェックをしていますが、一般入試では、怪我や病気、入院などの理由の明らかな欠席に関しては考慮します。

※入院など欠席の明確な理由がある場合は、調査書に書いてもらうか、中学校の公印のある理由書を調査書に添付してもらってください。

※推薦入試に関しては、欠席日数の上限を超えていたら出願できません。

≪“学校”に通っていない方について≫

質問1 年齢は出願基準を満たしていますが、学校には通っていません。受験できますか。

回答1 年齢は基準を満たしていても、学校(文部科学省設置の学校・各種学校)に通っていない人には受験資格がありません。

質問2 中卒程度認定試験に合格していますが、一般入試の出願資格はありますか。

回答2 出願資格はありません。中学校などの学校に通い、3年間の出席記録などの就学実績がないと受験できません。

≪入試相談会、各種相談会について≫

質問1 中学校の担任のための入試相談(事前相談)はありますか。

回答1 ありません。

※中学校教員向けの入試相談を行っている高校もあるようですが、本校では実施していません。

≪入学手続きについて≫

質問1 入学手続きはどこで行われるのですか。

回答1 手続きは本校で行われます。指定された時間内に必要書類を提出してください。入学金・施設設備料は入学金決済サイトから納付していただきます。

≪その他≫

質問1 過去問題集は販売していますか。

回答1 市販されていますが、本校では販売していません。前年度の入試問題は、本校ウェブサイトからダウンロードすることが可能です。

質問2 過去問の配点を教えてください。

回答2 配点・採点方法・部分点などについては、すべて非公表です。

質問3 受験の際、上履きは必要ですか。

回答3 必要ありません。

質問4 受験の際、自動車で行ってもよいですか。

回答4 ご遠慮ください。ただし、車椅子使用もしくはケガ等で自動車を必要とする場合は、事前にご相談ください。

質問5 子どもが入試を受けている間、保護者の待機場所は用意されていますか。

回答5 付き添いの方の控室は設けていません。受験生以外、構内は立ち入り禁止となりますのでご注意ください。

質問6 入試当日の昼食の用意は必要ですか。

回答6 推薦・帰国生入試では、昼食をご用意ください。

適性検査終了後に面接試験の日程が発表され、面接の時間が午後になる場合があります。一般入試では、昼食の用意は必要ありません。

質問7 キリスト教信者ではないのですが、大丈夫ですか。

回答7 ご心配ありません。一切不利な扱いはしていません。キリスト教信者でない生徒が大多数です。

質問8 卒業生の子女弟妹は優遇されるのですか。

回答8 されません。

推薦入試に関するQ&A

《入試日程・募集人員について》

※入試要項をご覧ください。

《出願資格について》

➤ 評定について

質問1 推薦の出願条件となる評定に届くか分からないのですが、学力の学校間格差を考慮に入れた措置はありますか。

回答1 ありません。基準をクリアしていなければ、出願していただくことはできません。

質問2 評定が高い方が合格しやすいですか。

回答2 適性検査や面接等で同点になった場合は、評定の高い方が有利になります。

質問3 基準の内申点に1点届かないのですが、英検で何級を取っていれば加点してもらえますか。

回答3 英検などで優れた級を取得していても、内申点の基準に満たない方は出願できません。

質問4 評定とは、中学3年の1・2学期の9科目合計を指しますか。それとも中学1年～3年2学期までのすべての評定の平均を指しますか。

回答4 中学3年1・2学期の9教科の総合成績です。

質問5 出願資格に「9教科の5段階評定の合計が40以上の者」とありますが、実際にはもっと高い基準であって、基準ぎりぎりの評定では足切りされるということがありますか。

回答5 そのようなことはありません。

質問6 中学1年まで海外現地校に在籍し、2年次から国内の公立中学校に編入しました。一部教科にハンディキャップがあり、結果として「9教科の5段階評定の合計が40以上」という基準に達しない場合、何らかの考慮はされるのでしょうか。

回答6 個別の考慮はいたしません。

➤ 欠席日数について

質問1 学校の体育の授業で怪我をしたために入院し、欠席日数が基準を超えてしまったのですが、推薦の出願資格はありますか。

回答1 学校で起きた怪我が原因で入院しても、欠席日数が基準を超えている場合は、出願資格がありません。

質問2 出欠の記録は、12月のどの時点までの欠席日数を記入すればよいですか。担任が成績をつける日までの欠席日数ですか。それとも、終業式までの欠席日数ですか。

回答2 12月の登校するべき最終の日までの日数をご記入ください。

➤ 推薦入試の併願について

質問1 出願資格のところに「本校を第一志望とする」と書いてありますが、他校を併願で受験することはできますか。

回答1 他校を受験することは可能ですが、本校に出願した場合には①必ず本校を受験すること、②合格の際には必ず入学をすること、が条件となります。この2つの条件を確約するものとして、学校長からの推薦書を提出していただいています。

質問2 推薦入試に出願しながら、他校も受験して合格した場合、受験を取りやめるという選択はできますか。

回答2 できません。出願資格に「本校を第一志望とする」という条件がありますので、受験をしない、という選択肢はありません。

➤ 高校併設の私立中学・中等教育学校からの出願について

質問1 推薦入試への出願が可能とのことですが、特別に必要な書類はありますか。

回答1 ありません。推薦の出願資格を満たし、在籍する中学校からの推薦書類が整えば、出願することができます。

質問2 親の転勤のため、地方の中高併設の私立から入学したいのですが、推薦の出願資格はありますか。

回答2 あります。在籍する中学校が全国どこであっても、出願基準は同じです。

➤ インターナショナル校からの出願について

質問1 インターナショナル校に通っているのですが、推薦入試の出願資格はありますか。

回答1 インターナショナル校の方には推薦入試の出願資格はありません。

≪調査書・推薦書・作文について≫

➤ 調査書について

質問1 生徒会長や検定・資格はどのように評価されますか。

回答1 可否の判断に関わることなのでお答えできませんが、「自分の魅力だ」と思われるものはすべて調査書に記入してもらうよう、担任の先生にお願いしてください。

質問2 学外での活動を調査書に記入しても構いませんか。

回答2 「自分の魅力だ」と思われるものはすべて調査書に記入してもらってください。書くべきか悩んだときは書いてもらうことをおすすめします。学外での活動は「特記事項」の欄に記入してもらってください。

質問3 中学1～3年生の評定を記入するのはどうしてですか。出願資格に関係があるのは、2,3年生の評定だけですか。

回答3 出願資格に関係する評定は、2,3年生の評定のみです(3年次の評定合計と、2,3年次に「2」以下がないこと)。全学年の評定を記入してもらっているのは、志願者がどのような中学校生活を送ってきたのかを参照するためです。

➤ 推薦書について

質問1 推薦書は現在の学校の先生に記入してもらわなくてははいけませんか。転校してきたばかりなので、以前通っていた学校の先生に書いてもらいたいのですが。

回答1 転校などの理由により、現在在籍している学校で過ごしている日数が短く、自分のことをよく知っている前の学校の先生に推薦書を書いてもらいたい場合は、それも可能です。

※注意 推薦書を別の学校の先生に書いてもらうときは、その先生が書いた推薦書を現在通っている中学校に 厳封で 送付してもらい、推薦書の原本と同封して提出していただく必要があります。

質問2 昨年担任だった先生が現在は教育委員会で働いているのですが、その先生に推薦書を書いてもらうことはできますか。

回答2 できません。推薦書は、現在教職に就いている先生に記入してもらってください。

質問3 推薦書は退職した先生に書いてもらってもよいですか。

回答3 退職した方には推薦書を書く資格がありません。現職の先生に記入していただいでください。

質問4 推薦書は、①～③の欄をすべて同じ先生に書いてもらわなくてははいけませんか。

回答4 すべて違う先生に記入してもらっても構いませんし、同じ先生に記入してもらっても構いません。

質問5 「志願者をよく知る教員」が外国人の場合はどうにしたらよいですか。

回答5 日本語訳したものを本校所定の用紙にお書きください。また、原文を添付してください。

➤ 作文について

質問1 今年度の作文のテーマを教えてください。

回答1 作文のテーマは、本校ウェブサイトよりダウンロードしていただく原稿用紙(9月上旬に掲載)に書いてありますので、そちらをご覧ください。

質問2 作文は合否に関係ありますか。

回答2 作文の内容によって直接合否が決まるわけではありませんが、適性検査・面接・書類審査によって総合的に合否を判断するので、一つの要素としてももちろん関係があります。

質問3 作文を書くときのポイントを教えてください。

回答3 あなたの考え方や活動が分かるように、1つ(多くても2つ)のテーマについて深く掘り下げ、論理的に書いてください。誤字脱字にも注意しましょう。

質問4 作文に書いてあることから面接で質問されるのですか。

回答4 作文の内容についても質問しますし、調査書や推薦書に記載されていること、その他のことについても質問します。

質問5 作文を清書しているときに漢字を間違えてしまいました。訂正印で訂正するべきですか。

回答5 訂正印は必要ありません。修正テープで消していただいても構いません。

《面接について》

質問1 面接はどのような形式で行うのですか。

回答1 面接委員2名の個人面接で、時間は10分程度です。面接の時間は入試当日の適性検査後にお知らせします。面接が午後になる受験生もいるので、昼食を持参してください。

質問2 面接ではどのようなことを聞かれますか。

回答2 面接では、調査書・推薦書・作文に記載されていることについて質問することが多いです。もちろん、記載されていないことに関しても質問します。

《適性検査について》

質問1 適性検査の時間や解答の形式を教えてください。

回答1 国語(古典除く)・数学・英語(リスニングなし)の3教科を60分間で解いてもらいます。3教科の時間配分は受験生に任せられ、こちらから指示はいたしません。解答はマークシート形式です。

質問2 適性検査には教科ごとに合格最低点があるのですか。

回答2 具体的な点数はお答えできませんが、各教科とも合格最低点を設けています。

質問3 適性検査の過去問を公表していないのはなぜですか。

回答3 推薦入試は、学力だけではなく、学習面以外にも魅力のある生徒に入学してほしいと考えて作られた入試方式だからです。適性検査は本校における学習に必要な基礎学力を確かめるもので、特に受験準備を必要とする出題内容ではありません。

質問4 適性検査の問題の難易度はどれくらいですか。

回答4 中学校で学んだ内容が定着しているかどうかを問うレベルの問題です。

質問5 適性検査の対策を教えてください。

回答5 難解な応用問題よりも基礎的な問題を確実に解けるような練習をすることです。また、普段から時間配分を自分で考え、正確かつスピーディーに問題を解く練習をすることです。

《合否・補欠合格について》

➤ 合否について

質問1 適性検査・面接・書類審査のうち、一番ウェイトが大きいのはどれですか。

回答1 本校の推薦入試で入学してほしい生徒像は、「学力」・「人間的魅力」・「基本的な生活習慣」のすべてを兼ね備えている人です。適性検査・面接・書類のどれも大切です。

質問2 推薦入試では、補欠合格を出していますか。

回答2 出していません。

質問3 推薦入試に合格したあと、他の高校に入学を決めてもかまいませんか。

回答3 推薦入試には「本校を第一志望とする」という条件がありますので、合格後の入学辞退はできません。

➤ 推薦入試と一般入試の併願について

質問1 推薦入試を受けたのちに一般入試を受験すると有利になりますか。

回答1 一般入試において補欠となった場合は、補欠順位について優遇する場合があります。

《入学手続きについて》

➤ 入学金・施設設備料の延納について

質問1 入学金・施設設備料は延納できますか。

回答1 推薦入試の場合は、本校が第一志望のため延納できません。

➤ 一般入試と併願している場合の入学検定料について

質問1 推薦・一般を併願しているのですが、推薦入試で合格した場合、一般入試の入学検定料はどうなりますか。

回答1 推薦入試で合格し、入学金及び施設設備料を納付した場合、推薦入試の入学手続き時にお渡しする書類に従って願い出ることにより、一般入試の入学検定料(事務手数料を除く)を後日お返しいたします。

≪その他≫

➤ 推薦入試と帰国生入試について

質問1 推薦入試と帰国生入試はどちらが入りやすいですか。

回答1 入試方式の特徴が異なります。自分の魅力をより発揮できると思う方式で受験してください。

➤ 事前の入試相談について

質問1 事前の入試相談を行っている学校もあるようですが、そのような入試相談はありますか。

回答1 入試相談(事前相談)は行っていません。

本校の推薦入試は公募制推薦入試のため、適性検査・面接・書類審査によって総合的に合否を決めています。

質問2 学校説明会などの入試相談に模擬試験の結果を持参すると、アドバイスをもらえますか。

回答2 そのようなご相談はご遠慮いただいております。

➤ 推薦入試の欠席について

質問1 推薦入試を欠席した場合、どうなりますか。

回答1 推薦入試の出願資格に「本校を第一志望とする者」という条件があるため、出身中学校長から本校へ、欠席理由書を提出していただきます。

帰国生入試に関するQ&A

《入試日程・募集人員について》

※入試要項をご覧ください。

《出願資格について》

質問1 入試要項には「出願者本人が単独で海外留学をしていた場合、帰国生入試の出願資格はない」と書いてありますが、本人の留学に家族が同行すれば出願が認められますか。

回答1 認められません。帰国生入試は、両親の仕事の都合など、本人の意思と関係なく海外で生活しなくてはならなくなった生徒を対象とする入試です。

《出願書類について》

➤ 提出する書類について

質問1 出願書類にはどのようなものがありますか。

回答1 帰国生入試の出願には次の書類が必要です。

- (1)国内の中学校または日本人学校を卒業・卒業見込みの者は、中学校が作成する調査書
 - (2)海外の現地校・インターナショナル校等に在籍した者は、中学校相当期間にかかる全ての成績証明書(学校長の公印または署名のあるもの)
 - (3)離日前に国内の中学校に在籍した者は、その中学校の成績証明書
 - (4)帰国生調査票(受験生本人が記入)
 - (5)海外在留証明書(在留期間、在留地名を記載。所属機関代表者の公印が必要)
- ※(1)・(4)・(5)は本校指定の用紙。

➤ 成績証明書について

質問1 現地校の場合、成績証明書は何学年のものが必要ですか。

回答1 日本の中学校相当の年齢の時期に関わるもの(満12歳の4月以降のもの)すべてを提出してください。

質問2 成績証明書はコピーでもよいですか。

回答2 コピーそのものは認めておりませんが、コピーに「原本と相違ない」という出身校の証明(校長もしくはそれに相当する方のサインや公印)があれば構いません。証明書が厳封されていて中身が確認できない場合は、そのままご提出ください。

質問3 帰国の際、成績証明書の原本を1部しか発行してもらえず、今からコピーにサインや公印をもらうことも難しいのですが、どうしたらよいですか。

回答3 まず出願時には、成績証明書のコピーをお送りください。コピーであることを付箋に書き、貼り付けて提出してください。後日、来校いただき、オリジナルの成績証明書原本と照合をさせていただきます。

質問4 現地校では、紙での成績証明書を発行していない(コンピューターだけで通知される)場合、どうしたらよいですか

回答4 まずは出願時に、プリントアウトしたトランスクリプトをお送りください。自分でプリントアウトしたものであることを付箋に書き、貼り付けて提出してください。そして、現地校に対し、オリジナルのトランスクリプトをメール添付で青山学院高等部帰国生入試担当者宛にお送り願いたい旨、依頼しておいてください。送り先のメールアドレスは、出願後にお知らせいたします。

質問5 日本人学校の場合は、現地での成績証明書は必要ですか。

回答5 海外日本人学校から直接受験される場合は調査書の提出が必要です。現在日本の中学校に通っていて、日本人学校での成績を調査書に転記してもらえる場合は、成績証明書は必要ありません。転記してもらえるかどうかは中学校にご確認ください。

質問6 厳封と書いてある提出書類の封があいている場合はどうなりますか。

回答6 提出書類がオリジナルであることがわかる形であれば大丈夫です。コピーの場合は、校長もしくはそれに相当する方のサインをもらってください。

➤ 帰国生調査票について

質問1 帰国生調査票に海外での在学期間を記す欄がありますが、ここには何歳から何歳までの在学期間を記せばよいですか。

回答1 日本の小学校1年生就学年齢以降から現在までのすべての海外での就学履歴を記入してください。その際、在住地が同じでも、学校が変わった場合や、一時帰国が6か月以上にわたる場合は欄をあらためてご記入ください。

➤ 海外在留証明書について

質問1 海外在留証明書の書式について詳しく教えてください。

回答1 海外在留証明書は、保護者の所属機関に現地での滞在期間を証明してもらうための書類です。保護者と志願者の海外滞在期間をご記入いただき、所属機関(会社等)の公印等が必要になります。用紙(PDF)は本校ウェブサイトにてダウンロードが可能です。

《面接について》

質問1 面接はどのような形式で行われますか。

回答1 受験者2～3名のグループ面接です。面接委員は2～3名で、時間は15分程度です。面接の質問は基本的には日本語で行われますが、英語圏の現地校やインターナショナル校出身者には英語による質問があります。ただし、英語力を問うことが目的の面接ではありません。

《適性検査について》

質問1 適性検査の時間や解答の形式を教えてください。

回答1 国語(古典を除く)・数学・英語(リスニングなし)の3科目全体で60分のマークシート式テストです。国語と数学に関しては、本校における学習に必要な適性と中学校課程修了程度の基礎学力を確かめるためのもので、英語のみ、少々難易度の高いものとなっています。内容は公表していません。教科ごとに合格最低点(非公表)が設けられています。

《合否・補欠合格について》

質問1 英検の資格を持っていると、合格判定で優遇されますか。

回答1 優遇はされません。

質問2 合格人数は募集人員ちょうどですか。また、補欠合格はどれくらい出しますか。

回答2 合格者は募集人員よりも多く発表しています。補欠合格は出していません。

《入学手続きについて》

- 入学金・施設設備料の延納について

質問1 入学金・施設設備料は延納できますか。また、延納の期限はいつですか。

回答1 入学金は延納できませんが、施設設備料は延納可能です。延納する場合は、納付延期願を提出する必要があり。詳細は、入学手続き時に配布する書類をご確認ください。

《その他》

- 推薦入試と帰国生入試について

質問1 推薦入試と帰国生入試はどちらが入りやすいですか。

回答1 入試方式の特徴が異なりますし、その年の受験者数・受験生の魅力などによって左右されるので、どちらが入りやすいかはわかりません。自分の魅力をより発揮できると思う方式で受験してください。

➤ 一般入試との併願について

質問1 一般入試にも出願できますか。また、出願した際には優遇されますか。

回答1 一般入試にも出願できます。優遇はされません。

➤ 入学後の学校生活について

質問1 帰国生の入学後のクラス配置はどうなっていますか。

回答1 本校では、お互いに良い刺激を与え合うことができるように、中等部からの内部進学者、一般・推薦・帰国生入試合格者を混合したクラス編成にしています。

質問2 帰国生に対する英語の授業は、他の生徒と異なっていますか。

回答2 帰国生のみを対象とした英語の授業はありませんが、必修の英語は2クラスを3つの少人数クラスに分け、習熟度別の授業を行っています。また、2・3年次の選択科目において、テーマ・レベル・スキル別のネイティブスピーカーの教員による授業を複数開講しており、生徒の能力やニーズに合わせて学べるように工夫しています。

質問3 帰国生の場合、授業についていけるでしょうか。また円滑に学校生活を送れるでしょうか。

回答3 なかには最初国語などで苦労する生徒もいますが、それぞれ努力をし、成果をあげています。また、国際交流委員会が各教科に依頼して「質問の会」を行ったり、一人一人の相談の場であるアドバイザー・システムを設けたりして、学習面、生活面でのケアを行っています。帰国生も円滑に学校生活を送っています。帰国生入試で入学した生徒が学校生活について語った動画を本校ウェブサイトにて公開していますので、ご覧ください。

一般入試に関するQ&A

《入試日程・募集人員について》

※入試要項をご覧ください。

《出願資格について》

➤ 年齢について

質問1 中学校過年度卒業者の受験は認められますか。

回答1 生年月日の条件に合致していれば認められます。出願資格については、入試要項をご確認ください。

➤ 国内のインターナショナルスクールからの出願について

質問1 国内のインターナショナルスクールに通っているのですが、一般入試の受験資格はありますか。

回答1 学校教育法に基づく各種学校の認可を受けたインターナショナルスクールに通っていて、学齢が達していれば、基本的には受験できます。ただし、インターナショナルスクールによっては出欠席のデータのない学校もあり、本校で就学実績等を確認する必要があります。ご心配な点があれば、出願の前に本校までお問い合わせをお願いします。

➤ 民族学校(朝鮮学校、韓国学校、中華学校など)からの出願について

質問1 民族学校に通っているのですが、一般入試の出願資格はありますか。

回答1 各種学校の認可を受けた民族学校であれば、受験できます。調査書の記入については、文部科学省認定のカリキュラム名に合致する科目は、本校が指定している用紙や欄にご記入をお願いします。書式に合わない科目が多い場合は、本校までお問い合わせをお願いします。

《調査書について》

質問1 学外での活動を調査書に記入してもらってもかまいませんか。

回答1 「自分の魅力だ」と思われるものは調査書に記入してもらってください。学外での活動は「特記事項」の欄に記入してもらってください。

《筆記試験について》

質問1 筆記試験の時間や解答の形式を教えてください。

回答1 国語・数学・英語(リスニングあり)の3教科各50分間で、各教科の満点は100点です。英語はマークシート式試験となります。リスニング試験の時間は約10～15分です。放送原稿を本校ウェブサ

イトにて公開していますのでご覧ください。

質問2 教科ごとに合格最低点があるのですか。

回答2 各教科とも合格最低点を設けています。極端に点数の低い教科がある場合は不合格となります。

《合格・補欠合格について》

質問1 評定はどの程度合否に影響しますか。

回答1 選抜は筆記試験・書類審査により行われ、中学3年生2学期の内申点を加味していますが、その割合は公表していません。

質問2 合格最低点は何点ですか。

回答2 合格最低点は公表しておりません。

質問3 募集人数ちょうどしか合格者を出しませんか。

回答3 例年、募集人数よりも多くの合格者を出しています。詳しくは過去の合格者数を参考にしてください。

質問4 補欠は例年何番くらいまで繰り上げ合格となりますか。

回答4 年により様々です。1人も繰り上げ合格とならなかった年もあります。

《入学手続きについて》

➤ 入学金・施設設備料の延納について

質問1 入学金・施設設備料は延納できますか。

回答1 入学金は延納できませんが、施設設備料は延納可能です。延納する場合は、納付延期願を提出する必要があります。詳細は、入学手続き時に配布する書類をご確認ください。

質問2 補欠者に入学許可が下りた場合、入学費用に追加負担はありますか。

回答2 一切ありません。

《その他》

質問1 一般入試には面接はありますか。

回答1 ありません。

質問2 推薦入試を受けたのちに一般入試を受験すると有利になりますか。

回答2 一般入試において補欠となった場合は、補欠順位について優遇する場合があります。